

この図に示した機器以外にも同じことがいえ、20機種のうち、小学校は14機種、中学校が16機種、高等学校で11機種で全国平均を下まわっている。

このようなことから本県では各校とも多くの種類の教育機器を所有しているが、各機種についての所有数は少ないといえる。

④ 新しい教材基準からみた充足率

文部省は新しい「教材基準」を昭和53年7月に発表した。

〈表6〉は、おもな教育機器について、この新しい基準をもとに学校規模別の充足率を算出したものである。

ポータブル電蓄、スライド映写機は小・中学校とも基準に近いが、基準を上まわる充足率を示している。

OHPやテレビ受像機は先にもふれたように、所有率や1校あたりの台数もかなり高いが、1学級に1台を目指している新基準をもとにするとまだ充分でないことがわかる。

(2) 地区別にみた小学校、中学校の教育機器所有状況

県内の小・中学校を教育委員会が定めている地区区分を用いて区分し、それぞれの地区ごとに所有率、1校あたりの所有数、1台あたりの学級数を集計したのが〈表7〉、〈表8〉、〈表9〉である。

○ 小学校

全ての地区で高い所有率をしめす機器として、テープ式録音機、電蓄、OHP、スライド映写機、テレビ、音声放送設備、カメラ、8ミリ映写機、スクリーンをあげることができる。これに対して全ての地区で所有率の低い機器は、教材提示装置L・L、8ミリ編集機、写真暗室であり、このほかの機器は地区によって差がみられる。

また、1部の地区だけ他に比較して所有率の高い機器としては、シート式録音機(郡山)、VTR(郡山)、コンセプト映写機(いわき)、反応分析装置(安達・郡山)、スライド作成機(北会津)がある。

全体的に各機器の所有率が高い地区としては伊達、安達、郡山、いわき地区をあげることができる。

○ 中学校

全ての地区で高い所有率をしめす機器は小学校と同じ機器が該当している。所有率の低い機器は映像放送設備、スライド作成機、8ミリ編集機、をあげることができる。

他地区との比較で1部の地区が特に所有率の高い機器はシート式磁気録音機(郡山)、実物投影機(東白川)、教材提示装置(石川)、テレビカメラ(安達)、反応分析装置(郡山)、LL(郡山)などである。

全体的に各機器の所有率が高い地区は、伊達、安達、郡山地区である。

〈表6〉新教材基準にもとづく学校規模別充足率

機器名 学校規模	ポータブル電蓄		オーバーヘッドプロジェクター		スライド映写機		テレビ受像機		8ミリ映写機		16ミリ映写機		反応分析装置		TP作成機		スクリーン	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
1～5	149	119	52	61	130	131	42	19	85	80	31	30	2	3	39	38	64	75
6～12	121	85	39	65	90	103	37	16	86	88	52	67	10	34	28	25	50	82
13～18	133	87	46	67	85	83	52	18	50	55	73	86	35	56	29	23	68	80
19～24	165	82	44	67	97	77	63	14	50	64	71	96	36	69	29	24	66	105
25～30	129	106	54	86	87	100	52	17	37	41	83	89	53	78	39	22	63	118
31～	131	190	46	66	89	100	49	13	41	80	94	120	39	120	25	40	72	94

充足率(%) = 1校あたりの平均所有数 ÷ 基準数 × 100